

若手保育者座談会

私たちが働いた園の 「ここがよかった」「ここが大変だった」

保育者が長く、安心して働き続けられる園づくりは、多くの園にとって重要なテーマになっています。

では、保育者は何を求めて幼児教育の世界に飛び込んできたのでしょうか。

そして、どんなときに幼児教育に対する魅力を見失ってしまうのでしょうか。

20代の3人の保育者に、自身の経験とそこで感じたことを率直に語っていただきました。



Aさん

保育者になって4年目。四年制の保育者養成校（以下、養成校）を卒業後、現在の園に勤務。



Bさん

保育者になって5年目。四年制の養成校を卒業。転職経験あり。現在の園に勤務して3年目。



Cさん

保育者になって4年目。四年制の養成校を卒業。転職経験あり。現在の園に勤務して2年目。

どんな希望を抱いて保育者をめざし、園を選んだ？

同僚と話し合いながら、根気強く子どもにかかわっていく仕事は、やりがいがありそうだと思います



人の成長の根っこをつくる やりがいのある仕事

Aさん 子どもの頃、私のことを大切にしてくれた幼稚園の先生のように、私も子どもと向き合いたいと、小さい頃から思っていました。人の成長の根っこをつくる幼児期にかかわる保育者は、責任も重いけれど、すてきな職業だと思っています。

Bさん 高校生になる頃から、保育者が将来の目標でした。先生を慕って卒園した後に何度も訪れる人がいるように、人生の中のごくわずかな時間

しかかかわらないのに、その人に大きな影響を与える存在が保育者なのだと思っていました。

Cさん 子どもが好きで保育者をめざしましたが、養成校で学ぶ中で、それだけではやっていけない仕事だということも理解していました。子どもに関する問題が起きたとき、その原因を探り、園の先生たちと解決方法を話し合い、協力しながら子どもと根気強くかかわっていく仕事は、大変だけれどやりがいがあるだろうと考えていました。

Aさん 就職活動で重視したのは、その園の保育観です。私は、子どもに何かをさせる活動よりも、

子どもが自分で育っていくときの援助を大切に
する園で働きたいと考えていました。保育者の「こ
うなってほしい」という思いは大切ですが、それ
が行き過ぎると「あれもこれもできるように」と
いう詰め込みになってしまいます。子ども自身の
選択肢を奪うことはしたくなかったのです。

Cさん 私も、子ども自身のやりたい気持ちを大
切にする園で働きたいと考えていました。特に私
は、体操、読み書き、英会話などに先取り学習の
ように取り組ませる園は、自分には向かないと思っ
ていました。もちろん園の考えもあるでしょうし、
やっているうちに興味がわく子どもがいることも
今なら理解できますが、そのときの私は、例えば
1人担任の場合だと、そうした活動に興味がな
い子どもにも、きめ細かな援助ができないまま取
り組ませることになるのではないかと思います。

園のウェブサイトでもそうした観点で教育内容を
チェックして、見学に行く園を絞り込みました。

Bさん 私が通ったのは遊び中心の園でしたから、
就職活動でも自由保育を取り入れている園に見学
に行きました。実際の見学時に注目したのは、保
育の部屋に入ったときに、子どもの自由な遊びが
展開されているか、さまざまな年齢やクラスの子
どもが交じり合っているかです。また、保育者の
子どもへのかかわり方や、見学者である私へのか
かわり方もよく見ました。例えば、保育の最中に
保育者同士が雑談に夢中になっているような園、
見学者の私があいさつしても返事をしてくれない
ような園には就職したくないと思いました。若手
の先生に対してベテランの先生が強い口調で指示
する場面などを見ると、そこで働くことになった
自分と重ねてしまい、候補から外していました。

実際に園で働き始めてわかった現実とは？

保育者の目を気にしながらの保育となり、
目の前の子どもの気持ちに寄り添っていませんでした



園内にある「暗黙の了解」 ほかでやっていないことはダメ？

Cさん 保育者になってよかったなと思うのは、や
はり子どもの成長を感じたときです。子どもは成
長過程でいろいろな壁にぶつかりますが、それを
子どもが自ら乗り越えようとしている様子をそば
で見たときには心が動きますし、子どもに対して
適切な援助ができたときにはやりがいを感じます。

Aさん 子どもの成長をそばで見守ることで、自分
も成長できていると感じますよね。どの仕事もそ
れぞれのやりがいがあると思いますが、涙が出
てくるほどの感動を日々味わわせてもらえる仕事は、
ほかにはないのではないのでしょうか。

Bさん 私が就職した園では、採用1年目の保育

者は全員クラス担任を任されましたから、子ども
と関係を築く面白さをすぐに味わうことができました。
でも、同期のどの保育者も、実は日々迷い
ながら保育に取り組んでいました。そして、次第
に先輩保育者の目を気にしながら保育をするよう
になっていったのです。というのも、その園では、
いろいろなことが明確な理由のないまま「暗黙の
了解」で決まっていたからです。例えば、朝、私
のクラスの子どもがホールでピアノを弾いている
と、先輩保育者が慌ててやってきて「どうしたの？」
と私に聞くのです。「ピアノを弾かせてはダメなの
ですか？」と尋ねると、「ほかのクラスではやって
いないから」との返事。また、園の行事のために作っ
た人形を持って園庭に出ようとしたとき、その様
子をじっと見ている先輩たちの様子から「あ、人

形は園庭に持ち出してはいけないんだ」と気づいたり……。ほかの保育者がやっていないことをすると、周りの様子が一変することに気づきました。

Cさん 私が勤めた園では、主任以上の保育者と、担任の考えがかみ合いませんでした。例えば、遠足のあとに主任を含めた全保育者で話し合い、遠足の思い出を子どもたちが絵に描いて、秋祭りで保護者の目にとまるようにホールの壁に貼ることにしたときのことで。そろそろ子どもたちの絵が完成しようかという段階になって、主任の先生が「全員が絵を描くと決めつけない方がいい」「どんな手段で思い出を表現してもいいのではないかと、一度了解したはずの内容に異を唱え始めたのです。その考えも理解できますが、同じ経験をした友だち同士が互いの絵を見合うという楽しさを重視した私たちの考えも、間違っているとは思いませんでしたし、「秋祭りには子どもが自由に作った作品を展示した方がよい」という主任の先生言葉には、「ここまで頑張った子どもの気持ちを考えていないのかな？」とも思ってしまいました。

Aさん Cさんが経験したことは、管理職の先生と現場の先生が、活動の目的を何に置くのか、事前にしっかり共有できていれば防げたはずですよ。それぞれの先生方のコミュニケーションがうまくいっていないと、子どもたちが悲しい思いをしてしまいますね。

子どもの姿を通して 保育者が比較されていた

Aさん 実は私もベテランの保育者との関係で苦労したことがあります。互いの保育観が違うことは感じていたのですが、それぞれの率直な思いを伝えられないまま保育を続けていくうちに歯車が狂い、相手の私に対する態度が素っ気ないものになっていきました。そして、その様子は子どもたちが察知するほどになってしまったのです。困った私は、すぐに園長先生に相談しました。園長先生は、私とベテラン保育者それぞれの話を聞いたあと、2人が話し合う機会を勤務時間内につくっ

てくれました。2人が同時に保育を抜けられるように、ほかの保育者もシフトの面で協力してくれる、みんなが私たちを気にかけて、「いい話し合いになるといいね!」と声をかけてくれました。

Cさん その結果、2人の仲はどうになりましたか？

Aさん 2人で向き合って、最初のうちはなかなかうまく話せなかったのですが、次第にベテラン保育者が自分の率直な思いや反省の言葉を述べてくれて、最後は互いに涙を流しながら「子どもたちのために、これからは思ったことは隠さずに言おうね」と約束し合いました。今では休日を一緒に過ごすほど、仲よくなっているんです。

Cさん よかった！ 園長先生に相談できたこと、周りの先生も2人のためにフォローしてくれたこと、とてもすてきなことですね。

Bさん Aさんは、衝突していたときは大変だったと思いますが、それを乗り越えた今ではとてもすばらしい経験になりましたね。特に同じ年代の同僚がAさんの苦勞を知って、気にかけてくれたのがうらやましいです。私が養成校を出て就職した園では、同僚同士が常に周囲に比較され、互いに助け合う余裕がありませんでした。それは主任の先生が、いつも「あのクラスは早く準備ができた」「このクラスは上手に仕上げた」といった言葉を口にするため、担任はクラスの状態を通して自分が評価されているような気持ちになっていったからです。協力するどころか競い合うような状態で、ごっこ遊び1つをとっても、隣のクラスがパン屋さんごっこをしていたら、私のクラスでは



子どもの希望を聞かずにパン屋さんとは別のお店にしていました。もちろんそれは「まねしている

の？」と周りから見られないためです。悲しいことにまったく子ども主体ではありませんでした。



働き続けることができる園とは？

保育に取り組む上で大切にしていることを、
園長先生や同僚と語り合える環境があることだと思います

無理をしすぎると保育者も 子どもを大切に思えなくなる

Bさん 最初に働いた園で、私は保育自体が嫌いになりかけていました。でも、今勤めている園は、園長先生や主任の先生とクラス担任との距離が近く、「あの子は成長しているね」「この子に対するあなたの声かけがよかったよ」と、いろいろな先生から日々の保育を認めてもらえています。「あのとき、この先生がこんなことを子どもに言っていてすてきだった」といった、主任の先生がほかの担任を褒める話も、私には勉強になります。各学期末に行われる園長面談では、私が保育に取り組む上で大切にしていることを聞いてくれて、園長先生が私の保育をどう見ているかを聞かせてもらえる場になっています。園長先生が、普段の業務について「どうすれば負担が軽くなるか、アイデアを聞かせて！」とヒアリングしてくれるのも、今までにはなかった新鮮な喜びです。

Aさん 園長先生、主任の先生、そしてクラス担任が、一人ひとりの子どもを主体にして保育について語り合えることが大切ですね。「この子がこんなすてきな行動をした」「こんな成長を見せた」といったことを共有するような場は、働き方改革を理由に簡略化しないでほしいと思います。

Cさん ただ、いくら子どものことが好きでも、長時間、休憩もなく仕事ばかりしていると、気持ちに余裕がなくなり、子どものことを大切に思えなくなってしまうかもしれません。私の友人の保育

者は、園長先生に「仕事に追い立てられて、最近子どものことをかわいいと思えなくなりました」と正直に打ち明けたそうです。すると、その園長先生はシフトを工夫することで、保育者全員に対して休憩する時間ももちろん、子どもから離れて事務仕事に集中できる時間を1日の中につくるなど、改革を進めてくれたそうです。

Aさん 保育者を守ることは子どもを守ることなのだと、その園長先生は考えたのでしょうか。どの園の保育者も常に忙しいと思いますし、すぐに状況は変わらないかもしれませんが、園内での立場を越えてアイデアを出し合って、園をよりよくなりたいですね。そのためにも、普段から子どもを中心に、子どものための保育について語り合える関係性を、園の中につくっていききたいですね。

私たちの園探し体験から

●園のウェブサイトは園探しの入り口

自分だけで園を探すときは、まずウェブサイトをチェックして、定期的に更新されている園の中から、考え方や保育の様子が自分の保育観と合う園を選んでいました。

●多くの園を知ることが大切

園見学だけで普通の園の様子を知るのには難しいため、今思えばボランティアなどで積極的にかかわればよかったですし、そういう場がもっとあるとよいと思いました。

●園見学では実際の活動の紹介を

子どもたちが今取り組んでいること、保育者の援助、今後の展開などを、1つでもよいので具体的に教えてもらえると、園が大事にしていることが就職希望者にも伝わりやすいと思います。